

みどりの風



令和6年11月28日発行 No.13

校長 池田 誉

笑顔で元気に輝いた学習発表会

11月16日(土)、保護者や家族の皆様、学校運営協議会委員・学校支援ボランティアの皆様、そして地域の方々においでいただき、学習発表会を無事に開催することができました。



今年度のスローガンは「あきらめず 笑顔で 元気に 輝け!」。今年度も、各学級で富原について学習したことを、見る人に楽しくわかりやすく伝えられるよう、それぞれ工夫を凝らして発表しました。

1・2年生の劇「おばけじぞう」は、ユーモラスなお話を全員で楽しみながら元気いっぱい演技していて、見ている方も楽しくなる発表でした。また、製茶工場でお茶づくりの様子を見せていただいたり、お茶を飲み比べたりしてわかった富原のお茶のおいしさや効能について、楽しく伝えることができました。

3・4年生は劇「忍術 富原学園～特産品をゲットせよ～」で、お茶・シイタケ・銀沫・ブドウ・クレマチスなど、見学や体験を通して学んだ富原の特産物について、楽しい劇やクイズを通してわかりやすく伝えることができました。3人とは思えない堂々とした発表でした。

5・6年生は「今を生きる私たち～富原小ヒストリー～」で、富原小学校の歴史を取り上げました。学校に残る昔からの写真や、家族・ボランティアの方へのインタビューなどを手がかりに調べてわかったことを、クイズも交えてわかりやすく発表しました。来年の創立150周年に向けて、地域の方に関心を持ってもらうよいきっかけにもなりました。

最後の全校合唱「U&I」では、透き通った美しい歌声が体育館に響きました。また、今年度はどの学年も合奏に取り組み、よくまとまった演奏を披露しました。

保護者及び地域の皆様からも、「練習した成果が出せていて、去年よりも成長した姿が見られてうれしかった」「どの学年も元気に楽しそうに発表できていて、見る方も楽しかった」「知らなかった富原のことを知ることができた」等の感想をいただきました。

学習の成果を、大勢の方の前で堂々と表現できた子どもたち。一人一人のがんばりとチームワークで大きな行事を乗り越え、また一つ成長しました。保護者の皆様、地域の皆様、いろいろとご協力いただきありがとうございました。



わんぱくkids大集合 in 富原小

11月19日(火)に、勝山高校の2年生27名が富原小を訪れ、スポーツを通して児童と交流しました。



勝山高校では授業の1つとして、地域の小学生に運動の楽しさを伝え、体力を高めるイベントを企画・運営する学習を行っています。今回は、富原小学校の児童を対象に行われました。

最初はお互いに緊張気味でしたが、少人数のグループの中でお互いに自己紹介をすることでリラックスし、その後はたくさんのゲームと一緒に元気いっぱい体を動かしました。

高校生が自分たちのために一生懸命準備をしてくれたこと、当日優しく接してもらったことは、児童一人一人の心にずっと残る出来事になったと思います。児童にとっては、地元の高校生の活躍する姿が、将来めざす身近な目標にもなったのではないのでしょうか。楽しく笑顔で過ごした約2時間を通して、小学生も高校生も多くのことを学んだように思います。今後もいろいろな人との交流に積極的に取り組みたいと思います。



富原小の歴史～「校長室のお宝」

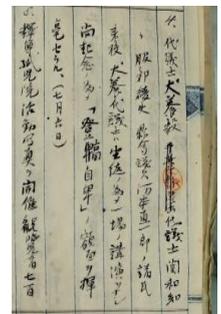
校長室の壁に、大きな額がかかっています。右から「登高自卑」と書かれており、「とうこうじひ」と読みます。日本風に読むと「高きに登るはひくより」となり、「高いところに登るには必ず低いところから始めるように、何事をするにも順序を踏んでこつこつと進むべき」という意味です。



き

書いた人の名は犬養毅。岡山県が生んだ明治から昭和にかけての大政治家です。安政2年(1855年)岡山市に生まれ、日本の憲政の確立、普通選挙の実現に尽力するなど、政党政治の確立に貢献しました。昭和6年(1931年)に総理大臣となりますが、翌年の「五・一五事件」で軍部に暗殺され、76年の生涯を閉じます。その際に自分を襲った青年将校に向けて呼びかけた「話せばわかる」という言葉がよく知られています。書家としても有名で、各地の学校に書が残っています。

校長室の耐火書庫に大切に保存されている「学校沿革誌」に、明治43年(1910年)7月6日、まだ代議士であった犬養が、他の代議士や県会議員と共に、新築された富原尋常小学校の視察に訪れ、児童生徒に講演し、記念にこの書を残したという記述が残っています。(右の写真)



い

このことから、当時の富原尋常小学校の校舎建設は、大きな関心が寄せられた大事業であったこと、とても立派な校舎だったことが想像されます。

富原小学校の前身である自新小学校が生まれた明治8年(1875年)から来年で50年。学校、そして富原という地域の移り変わりに目を向け、思いを巡らせてみるのにもよい機会になるのではないのでしょうか。

1